

# 1 漁況海況予報事業

友利 昭之助、他5名

沖縄海域の沖合、沿岸海域の海況を定期的に把握し、漁場形成、資源変動、再生産の場としての環境を判断する基礎資料をうること、更に魚群調査、卵・稚仔調査等によって漁況予報資源変動予測を実施することを目的とする。沖合定線調査は黒潮の動向、曳縄カツオ竿釣漁場の海況の把握を主目標に、沿岸定線調査はトビイカ、トビウオ等漁場の海況と魚群、卵稚仔調査を主目標におくものである。事業の実施にあたっては「昭和52年度漁況海況予報事業調査指針、南西海区水産研究所に準拠している。調査結果は、南西海区ブロック会議で報告済みであり、更に詳細な報告は別冊で行うためここでは概要に止める。

## 1 実施概要

### 沖合定線調査

航次	調査期間	船名	測点数	調査員	備考
1	S 52. 4.25 ~ 4.27	図南丸	12	川崎・吉川	
2	S 52. 7.19 ~ 7.21	"	"	吉川	
3	S 52.10.25 ~ 10.27	"	"	友利・仲宗根・新崎	
4	S 52.12.12 ~ 12.14	"	"	吉川・宮国	
5	S 52. 2.20 ~ 2.22	"	"	友利・喜屋武	

### 沿岸定線調査

航次	調査期間	船名	測点数	調査員	備考
1	S 52. 4.14	くろしお	10	吉川	南部定線・
2	S 52. 5.24 ~ 5.26	"	18	吉川	"・金武湾定線
3	S 52. 6. 9 ~ 6.10	"	10	吉川	"・
4	S 52. 7.12 ~ 7.14	"	18	喜屋武	"・金武湾定線
5	S 52. 9.27 ~ 9.30	"	18	金城・川崎	"・
6	S 52.10.25 ~ 10.26	"	18	久貝・吉川	"・
7	S 52.11.24 ~ 11.27	"	18	吉川・仲宗根	"・
8	S 53. 1.26 ~ 1.27	"	18	友利	"・
9	S 53. 3.16 ~ 3.17	図南丸	10	友利	"・

## 2 結果の要約

### 1) 海況 S52年1月～8月の実況の経過

#### イ 定置水温

那覇、与那国で平年比1月以降高目に経過。

前年比、那覇1～6月やや高目7、8月高目、与那国1～3月並、4月以降高目。冬期旬毎の水温変動は小さかった。昇温が例年より早く、与那国では5月上旬に27℃台となった。

#### ロ 水温、塩分

表面および200m層水温は平年比冬～春にやや低目か平年並に、夏は高目に経過。前年比も平年比同様の経過。表面塩分は全域で1～3月平年並、4～7月沖縄西側で平年比低目に、東側では高目に経過。前年比1～3月やや高目に、4～7月前年並に経過。200m層塩分は平年並、前年並に経過。

#### ハ 黒潮流路

沖縄北西90～100哩をNE～NNEへ流去、流速は1～2.5ノット。3月前半68哩まで沖縄列島に接近して流去。(海上保安庁)200m層16.5℃でみると2、4月例年同様陸棚斜面に沿ってNEへ流去。7月伊江島NWで陸棚斜面から大きく離れているため流向はENEであった。

#### ニ、沿岸水温の予報

黒潮勢力は減少に向うこと。

那覇の5ヶ月移動平均値の傾向から、6～8ヶ月間高目、6～8ヶ月間平年並(やや+か、やや-)のパターンがみられることから、10月～12月平年並、1～3月やや高目となるう。

### 2) 漁況情報

#### イ カツオ竿釣

沖縄海域：4～8月の漁獲量は前年比本部150%、伊良部232%、石垣144%とやや好漁であった。漁場は島回りであった。また沖餌が豊富であったこと、沖合で27℃水帯が5月にみられ例年より昇温が早かったことが好漁の要因と思われる。魚体は4～6月大・中判主体、7、8月は小判主体。9月に入って群はうすくなり終漁期は早くなりそうである。活餌はタカサゴ幼魚が大量発生し好調であった。

南方基地：52隻出漁し、8月までに20,000トンで前年の79%、例年に比べて好漁。

#### ロ 曳縄(糸満)

1～7月20,010kgで前年比178%増、これはサワラ類シイラの漁獲増によるもの。カツオ類は前年比減少。

#### ハ トビウオ類

例年に比べ漁期が早く3月から水揚げがあった。3～7月糸満10トン、前年の4.6倍、県

